

# 俺が現役の時に読みたかった受験記

東京大学 理科二類合格（岡大附属中学校、西小学校出身）

## \*補習科とはどういうところか

補習科は特殊な場所です。もちろん大学ではないし、かと言って高校でもありません。英語科大空先生の言葉を借りるならば、「自由な学び舎」でしょうか。

受験を行う際に、補習科に行ってよかったなと思うことは、自分と共に受験を戦ってくれる人が身近にたくさんいるということです。それは自分の悩みを聞いてくださる先生だったり、自分と同じ苦しみを味わう友人だったりします。ここが予備校での浪人との一つの大きな違いでしょう。自分が困った時にすぐに助けてくれる人がいる。精神は安定し、勉強に打ち込みやすくなるのではないのでしょうか。私はそうでした。

受験に限らず、補習科に言ってよかったなということは、自分が人間的に成長出来たことです。自分を見つめ、自分が何を大切にしているか、自分どうありたいかを学びました。これは近くに高校生である皆さんがいたことも大きいのかなと思います。高校生でも大学生でも何者でもない自分は一体何者なのか。そんなことを考えることが多い一年でした。まさに「自由な学び舎」です。

## \*東大受験者のみならず全ての受験生に向けて

最後に、これから受験に立ち向かうこととなる皆さんに私なりにエールを送らせて貰いたいと思います。

受験は運が絡むので、実力があっても普通に落ちます。私も今年はA判連発でしたが普通に落ちかけました。この受験記を読んで浪人生のことを小馬鹿にしているそこの君も、かつての私のように、いつかは気付くでしょう。浪人は普通にすると。

だからこそ、恐れるべきは、浪人ではなく妥協です。大人になる前に一回くらい命かけて勝負してもいいと思うけどな。まあ、こんなこと言うのは無責任か。でも、私が敬愛する物理の小野先生なら言うでしょう「選ぶなら辛い方だ」と。